

「音楽Ⅰ」シラバス

科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	2単位
学 科	熱帯資源科 園芸科学科 食品科学科 造園科 福祉科	学年	1年
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)	副教材	—

1 「音楽Ⅰ」とはこんな科目です (科目の概要と到達目標)

この科目は、音楽の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を養い、主体的・協働的に活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を育てる科目です。

2 「音楽Ⅰ」の評価

評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)をA：十分満足できる、B：おおむね満足できる、C：努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	1	1	1
評価方法	定期テスト・実技テスト ワークシート	定期テスト ワークシート	課題の提出・ワークシート・ 振り返り・授業態度・発表

学習目標

- ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性を理解することができる。
- ②音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けることができる。
- ③自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴き、得た情報や自分の考えなどについて、整理して書くことができる。
- ④主体的・協働的に活動に取り組み、聞いたりして得た情報や自分の考えについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。

音楽科 シラバス

教科	科目	単位数	学年・組	教科書名	副教材等
芸術	総合音楽A	2	2年(選択)	自主制作教材	自主教材プリント

到達目標	音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
------	---

学習の計画						
学期	月	配当時間	題材名	教材	学習活動	評価方法
1	4	6	●歌の楽しみ	校歌・FFJの歌 ふるさと A Whole new world	・詩の内容を理解し自校を愛する心情を養う。 ・伸びやかな歌い方や複式呼吸を学ぶ。 ・楽典の基礎を確認する。	・授業態度 ・学習プリント ・実技テスト
	5	6	●ギターに親しむ	ハッピーバースデートゥーユー 夢のなかへ	・ギターの基本的奏法を習得する ・伴奏付けについて理解し、コード進行を習得する	・学習プリント ・授業態度 ・実技テスト
	6	8	↓	↓	↓	↓
	7	4	●ミュージカルの楽しみ	The Sound of music	・ミュージカルのヒットナンバーを原語で歌唱し、映画鑑賞を通して、舞台芸術の醍醐味を味わう。	・学習プリント
2	9	6	●オペラの世界	カルメン 闘牛士の歌	・オペラアリアを原語で歌唱し、オペラ鑑賞を通して舞台芸術について学ぶ。	・学習プリント
	10	8	●創作に挑戦	虫のこえ	・イメージに合う音階を選択し旋律を考える。	・学習プリント ・作品演奏
	11	8	●三線に挑戦	安波節・安里屋ユンタ ていんさぐぬ花 島人ぬ宝	・三線を通して沖縄の音楽をより一層愛好する心情を培う。 ・三線の基本的奏法を身に付ける。	・学習プリント
	12	6	↓	↓	↓	↓
3			●季節を歌おう ●ミニコンサートに向けて	クリスマスソング	・クリスマスソングを原語で歌い、楽しさを感じ得る。 ・ミニコンサートの趣旨を理解し、計画をたてる。	・実技テスト ・計画プリント
	1	8	↓	↓	↓	↓
	2	6	↓	↓	↓	↓
	3	4	●南アメリカの音楽	花祭り	・スペイン語の歌を学び、歌を通して異文化理解を深める。	・学習プリント ・授業態度

音楽科 シラバス

教科	科目	単位数	学年・組	教科書名	副教材等
芸術	総合音楽B	2	3年(選択)	自主制作教材	自主教材プリント

到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
------	--

学習の計画						
学期	月	配当時間	題材名	教材	学習活動	評価方法
1	4	6	●歌の楽しみ ～ポピュラーソング	校歌・FFJの歌 翼をください ふるさと	・詩の内容を理解し自校を愛する心情を養う。 ・伸びやかな歌い方や複式呼吸を学ぶ。 ・楽典の基礎を確認する。	・授業態度 ・学習プリント
	5	8	●日本歌曲 ●キーボードに挑戦	花・待ちぼうけ この道・赤とんぼ 浜辺の歌 ちょうちょう他童謡	・歌う事の楽しさを感じ得する。 ・日本歌曲の美しさを感じ得する。 ・運指や階名を理解し、曲を仕上げる	・学習プリント ・授業態度 ・学習プリント
	6	8	↓	↓	↓	・実技課題進捗状況 ・実技試験(中間発表)
	7	6	↓	↓	↓	・学習プリント
2	9	8	↓	↓	↓	・学習プリント ・実技試験
	10	8	●創作に挑戦	中部農林高校を題材	・各自で設定したテーマの下、サウンドロゴを作曲し、 編曲を行い作品を発表する。	・学習プリント ・作品発表
	11	8	●ミニコンサートに向けて ↓	↓	↓	・計画プリント ・学習プリント ・実技課題進捗状況
	12	6	↓	↓	↓	・実技試験(中間発表)
3	1	8	↓	↓	↓	・ミニコンサート発表 ・実技試験
	2	4	●沖縄の音楽	童神 涙そうそう えんどうの花	・沖縄の民謡を通して、方言の違いなどを歌い比べる。 ・自国の音楽の特徴について理解する。	・学習プリント ・授業態度

「美術Ⅰ」シラバス

科目名	美術Ⅰ	単位数	2単位
学科	全学科(2年生選択)	学年	2年
使用教科書	なし	副教材	参考作品・その他資料提供

1 「美術Ⅰ」とはこんな科目です（科目の概要と到達目標）

この科目は美術に関する様々な作品制作を行うことで経験を積み上げ、心を豊かにしこれからの人生に潤いをもたらすことができるよう、日々の授業に取り組んでまいります。また個々の感性を高め表現力と鑑賞の能力を培っていきます。

2 「美術Ⅰ」の特色ある学習方法

特色ある学習方法

1. 国や文化、地域、時代などの違いから、暮らしと美術の関わりについて学びます。
2. 材料についての知識を深め、美術表現に活かせるように頑張ってもらいます。
3. 制作上必要な資料の取得の為にスマホ使用を許可する場合があります。
4. 課題制作に粘り強く、集中して取り組んでまいります。
5. 時間内にできない場合は、放課後等で行い責任感を持ってまいります。

3 「美術Ⅰ」の評価

1. 授業態度、みなり
 2. 作品制作に対する準備状況、制作意欲
 3. アイディアスケッチ、
 4. 提出作品
 5. 他の生徒の作品鑑賞
- 以上の事項を総合的に判断し評価します。

評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)を A：十分満足できる、B：おおむね満足できる、C：努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	1	1	1

4 授業で大切なこと

1. 一人では難しい力所は協力して制作に取り組んでください。
2. 学校の道具や器具を使用する際には、指導者の指示に従い、正しく使用してください。
3. 制服をはじめ、机や床、壁も汚さないように注意してください。
4. 他の生徒の作品や、見本の作品を客観的に鑑賞する態度でもって接してください。
5. 授業終了後の片付けや清掃に努めてください。
6. 常に周りの行動を把握し、次の手を判断して行動できる段取力を身につけてください。

学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美術的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

学習の計画(どのような内容をどの時期に学ぶのか)

学習内容	期	月	学習項目
1. オリエンテーション 2. 素描①静物 3. 素描②手の表現 4. レタリング 5. 色彩基礎	1 学 期	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の学習内容について ・設備の安全使用について ・自然物、人工物のデッサン (鉛筆デッサン) ・手のポーズの鉛筆デッサン 自分の手でポーズを決める ・ゴシック体、明朝体の基礎 ・色の性質についての基礎
夏 期 休 業			
6. 読書感想画 7. 陶芸 8. 版画「リノリウム版使用」	2 学 期	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を基にしたイメージ世界の創造 ・成形法で容器製作 (ひもづくり、たたらづくり、型づくり) ・版画の制作工程 ・リノリウム版の取り扱い
10. スクラッチで表現 11. 作品鑑賞 12. 振り返り	3 学 期	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・明暗の表現 (スクラッチの技法) ・作品を評価する 自分の作品他の作品を鑑賞し、評価する ・一年の振り返り
使用教材など	画材 鉛筆 画用紙 土 版 その他資料		

「美術Ⅱ」シラバス

科目名	美術Ⅱ	単位数	2単位
学科	全学科(3年生選択)	学年	3年
使用教科書	なし	副教材	参考作品・その他資料提供

1 「美術Ⅱ」とはこんな科目です（科目の概要と到達目標）

この科目は表現や鑑賞の行うことで、作品を製作することの喜び・大切さを感じ感性を豊かにするものです。授業の中で美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養いたいです。

2 「美術Ⅱ」の特色ある学習方法

特色ある学習方法

1. 国や文化、地域、時代などの違いから、暮らしと美術の関わりについて学びます。
2. 材料についての知識を深め、美術表現に活かせるように頑張ってもらいます。
3. 制作上必要な資料の取得の為にスマホ使用を許可する場合があります。
4. 課題制作に粘り強く、集中して取り組んでもらいます。
5. 時間内にできない場合は、放課後等で行い責任感を持ってもらいます。

3 「美術Ⅱ」の評価

1. 授業態度、みなり
 2. 作品制作に対する準備状況、制作意欲
 3. アイディアスケッチ、
 4. 提出作品
 5. 他の生徒の作品鑑賞
- 以上の事項を総合的に判断し評価します。

評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)をA：十分満足できる、B：おおむね満足できる、C：努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	1	1	1

4 授業で大切なこと

1. 一人では難しい力所は協力して制作に取り組んでください。
2. 学校の道具や器具を使用する際には、指導者の指示に従い、正しく使用してください。
3. 制服をはじめ、机や床、壁も汚さないように注意してください。
4. 他の生徒の作品や、見本の作品を客観的に鑑賞する態度でもって接してください。
5. 授業終了後の片付けや清掃に努めてください。
6. 常に周りの行動を把握し、次の手を判断して行動できる段取力を身につけてください。

学習目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

学習の計画(どのような内容をどの時期に学ぶのか)

学習内容	期	月	学習項目
1. オリエンテーション 2. ペーパークイリング 3. ワイヤーアート 4. 表現技法	1 学期	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の学習内容について 美術を学ぶことの心得について ・紙の特性を生かしたデザイン構成 折り曲げ方、紙の質感を生かした構成 ・針金での立体作品づくり 針金の加工方法 (切る、折る、曲げる) ・デカルコマニー、コラージュ、フロッタージュ スパッタリング、パチック技法
夏 期 休 業			
6. 読書感想画 7. 陶芸 8. 版画「リノリウム版使用」	2 学期	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を基にしたイメージ世界の創造 ・成形法で容器製作 (ひもづくり、たたらづくり、型づくり) ・版画の制作工程 ・リノリウム版の取り扱い
10. プラ版アート 11. 作品鑑賞 12. 振り返り	3 学期	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・キーホルダー、アクセサリーづくり (プラ版の扱い、油性ペンその他の描画材) ・作品を評価する 自分の作品他の作品を鑑賞し、評価する ・一年の振り返り
使用教材など	画材 鉛筆 画用紙 土 版 その他資料		

学習の計画(どのような内容をどの時期に学ぶのか)

学習内容	期	月	学 習 項 目
1、オリエンテーション 2、J-POP や日本歌曲の特徴を理解して歌おう 3、リズムアンサンブルを楽しもう 4、三線の弾き唄いに親しむ 5、能や謡に親しもう 6、世界の諸民族の音楽 7、1学期のまとめ	1 学 期	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> • 科目の授業内容について理解する。 • 曲にふさわしい表現。 • イメージをもった工夫した歌唱表現の創意工夫。 • 曲にふさわしい奏法で表現する技能。 • 曲想と構造、文化的・歴史的背景との関わり。 • 楽器の音色や奏法との関わりについて。 • 能の特徴と文化的・歴史的背景、言葉の特性と曲種に応じた発声。 • 世界の諸民族の様々な音楽表現の多様性。 • これまでの音楽学習を振り返る。
夏 期 休 業			
8、イタリア語・ドイツ語の音楽を歌おう 9、表現を工夫したヴォイス・アンサンブルをしよう 10、学校サウンドロゴを創ろう 11、表現を工夫してギターを演奏しよう 12、オペラやミュージカル音楽に親しもう 13、交響曲の魅力を探求しよう ベートーヴェンについて	2 学 期	9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> • イタリア語、ドイツ語の言葉の特性と旋律リズム • 合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴 • 創作に関わる知識や技能の習得。 • ギターの基本的な奏法を身に付け、技能の習熟度に応じた楽曲の音楽アンサンブル活動。 • オペラやミュージカルなどの総合芸術の特徴。 • ベートーヴェンの交響曲第9番第1楽章を通して、オーケストラの響きや、ソナタ形式の理解。
14、さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう 15、コンサートを開こう 音楽Ⅰのまとめ	3 学 期	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> • 他者との調和を意識した器楽アンサンブル自分 • 1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施する。
使用教材など	教科書・プリント・各種楽器など		